

令和2年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	I C Tを活用した小中連携プロジェクト
事業実施代表者名	校長 北 村 博 幸
実施附属学校名	北海道教育大学附属函館小学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>本事業は、小中連携による「主体的・対話的で深い学び」の研究に資する ICT 活用の実践・検証を図るものである。</p> <p>本年度も、函館小学校・函館中学校は、情報活用能力育成に焦点をあてた研究実践を行っており、函館小学校の本年度重点は次の通りである。</p> <p>① ICT 活用授業・プログラミング授業の研修会実施 (出前授業や地域各校の研修会にて)</p> <p>② ICT 活用・プログラミング授業カリキュラムの構築</p> <p>③ プログラミング授業の構築【ペッパーの活用】</p> <p>④ ICT 活用授業の実践(カリキュラムの実践)</p> <p>⑤ 情報モラル・情報安全教育の推進</p> <p>上記①～④それぞれの取組内容は次の通りである。</p> <p>① 苫小牧市教育委員会の視察研修をはじめ、地域各学校での研修会は5回ほど実施した。</p> <p>② 各学年における指導内容を明確化し、各教科の授業においてう身に付けるべき事項を整理した。</p> <p>③ ペッパーを活用した授業実践を通し、児童に体験的に学ぶ機会を得ることができた。また、ペッパーの導入を図った地域の学校において、先行している本校がペッパー活用授業の研修会を実施した。</p> <p>④ 構築したカリキュラムを基に、学年発達に応じて「写真撮影」→「記録の整理・保存」→「説明・記録化」→「発表・表現」これに、ローマ字や英語の学習、ワープロソフトやプレゼンテーションソフトの活用を組み合わせた指導の展開を図った。</p> <p>⑤ 警察や大学等の関係機関と連携した「スマートフォン等の安全教室」「SNS いじめ、情報安全教室」の開催をはじめ、学級指導や道徳、総合など機会を捉えて計画的・継続的に取組を進めた。動画配信やリモート授業の提供を見据え、伴って必要となる情報モラルや安全教育を今後さらに進めていきたい。</p> <p>※現在、iPadは全部で80台ほどあり、これに児童用PCを加え、ほぼ毎日いずれかの学年が活用しており、バッテリーがなくなる状況にある。今後、GIGA スクール事業により、さらなる活用が進むと予想される。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT活用授業、プログラミング授業の研修会を実施することができた。参加者からは「具体的な操作方法も知り、授業での活用ができる」と大変好評であった。研修会のニーズは高いので、今後さらに拡充したい。 ○ プログラミング教育のあり方について不安を抱いている公立学校が多く、本校の研究発信がプログラミング教育を身近に感じ、実際のあり方の提案が各校での実践化へつながっている。 ○ ペッパーがプログラミング表現の具体として体験できることの意義は大きかった。今後、地域各学校へのペッパーの配置状況により、ペッパー活用授業研究の方針をもちたい。 ○ ICT機器を様々な学習機会を活用できる可能性を広げることができた。これまでの積み重ね、学年のつながりがより強まったことで、児童の学習成果がこれまで以上に高まっている。修学旅行報告会等での児童作成物に如実に表れている。 △ ICT機器の活用が頻回になるにつれて、iPadの台数が不足することが大変多くなってきた。GIGAスクール事業による改善とともに、今後の研究への期待が膨らむ。 △ 情報モラル・情報安全教育の充実を図っているが、本校でもメール等による生徒指導上の問題がいくつか見られる。本校でのリモート授業未実施は、情報安全教育の不完全さが主因である。今後、早期に改善を図り、安全教室や指導の場の回数増や効果を高め、保護者への啓発とともに拡充する方針である。
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラミング教育実践についての授業公開や研修の場開設への期待は大きい。研究大会やセミナーだけでなく、本年度実施した研究交流及びICT活用・プログラミング教育に関連した研修機会を創設したい。 ・ 本年度研究により、児童による「自己評価」「相互評価」へのICT活用が効果的であるという検証結果を得ることができた。 画像や動画等を評価対象とするだけでなく、授業内、場面毎の児童の思考過程や目的意識の変化など、ICT活用による評価のあり方について研究を進める。 ・ GIGAスクール事業によるICT機器の充足が図られた際、その活用が円滑に行われるよう、ICT機器の管理面での組織体制の整備が必要である。 ・ 情報モラル・情報安全教育に力を入れ、専門的人材を招聘した講演会を核に、保護者と連携し、年間を通じた計画的な取組を継続する必要がある。
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業力向上セミナー (R2.2.14実施, HPでも同日公開) ・ 研究交流校における研修会の実施 (函館市立中島小学校・北美原小学校, 北斗市立大野小学校, 七飯町立藤城小学校, 苫小

に掲載された場合、 当該媒体名、掲載日 等を記入)	牧市教育委員会視察研修) ・ 本校 HP にて研究交流及び研修会実施についての広報掲示 (R2.12月より)
---------------------------------	--

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。